月刊 こばやしたかゆき
小林鷹之の手紙

震災復興について考える

絆を力に。2011年 **創刊号** ［討議資料］

自由民主党
千葉県第二選挙区支部 小林鷹之事務所発行
（八千代市・習志野市・花見川区）

編集後記

東日本巨大震災から約二ヶ月が経ちました。各地の被災地では未だ、避難所暮らしを強いられている方、ご家族を探し続けている方がたくさんいらっしゃいます。千葉県でも斜めに傾いた家、下水道の復旧が追いつかずトイレやお風呂が使用できない家、それでもその家に住み続けなければならない地域があります。被災された多くの方々にとっては、三月十一日から時計の針が止まったままなのに、被災地から一歩離れた地域に住んでいると、平常の生活に戻りつつあるのではと錯覚してしまうことがあります。そうではない現状を知るためにも私たちはアンテナを高く張り、いつでも的確に対応できるようにしておかなければいけないと思います。

私たち小林鷹之事務所スタッフ一同、皆様にこの「小林鷹之の手紙」を通してさまざまな情報を発信してまいります。
どうぞよろしくお願いいたします。

鷹之ブログ ameblo.jp/kobahawk

日々のニュースを、わかりやすく解説しながら自身の意見を述べているブログです。ぜひお読み下さい。

twitter twitter.com/kobahawk

０歳の娘のことから天気のこと食べ物のこと、気になったことをほぼ毎日つぶやいています。

ホームページ www.kobayashi-takayuki.jp

小林鷹之についてもっと知りたい、ボランティアに応募したい方、献金案内はこちらから。

小林鷹之事務所からのお知らせ

小林鷹之事務所では
- **ボランティアをしていただける方**
- **ポスター掲示場所をご提供して下さる方**
- **ミニ集会を開催して下さる方（小林本人が伺います！）**

からの御連絡をお待ちしております。
お電話またはメールにてお気軽にお問い合わせ下さい。
右下のQRコードをご利用いただいて、小林鷹之ホームページからもご連絡いただけます。

TEL：**047-409-5842** FAX：**047-409-5843**
Email：**info@kobayashi-takayuki.jp**
自由民主党千葉県第二選挙区支部小林鷹之事務所
〒276-004
千葉県八千代市ゆりのき台 3-3-5
アットホームセンター第２ビル　202 号室

活動報告

仙台市石巻市にて

▲石巻市にて自衛隊、地元のボランティアの方々と物資搬入のお手伝いをさせていただきました。自衛隊の方々は勤務中は全く座らず、ご飯も自分たちで用意してきているもの以外は、口にされないそうです。

▲女川港にてビルが津波によって倒れている写真。他、ビルの上に車が乗っていたり、電車が仰向けに倒れていたり、メディアなどで見る以上に甚大な被害でした。

▲▶被災地の方が衛生状態を保つための浴場。ある避難所では衛生状態が悪いため感染症が起きているという声も聞きました。

小林鷹之プロフィール

東京大学法学部卒業。平成 11 年大蔵省（現財務省）入省後、財政運営から国際金融に至るまで幅広い分野の政策立案を担当。在米日本大使館に出向した際、急速に変化していく国際社会の中で、日本が為す術もなく取り残されていく姿に危機感を抱き、2010年春財務省を退職。公募を経て自由民主党千葉二区支部長就任。

東日本大震災から二ヶ月が経過しました。私も東北地方の被災地に二度赴き、その惨状を目の当たりにし、筆舌に尽くし難い気分に襲われました。見渡す限りの瓦礫の山、あり得ない場所に打ち上げられた船や車の数々、引き波でなぎ倒されたコンクリート建造物。あまりにも傷痕が酷過ぎて、現実の世界とはにわかに信じられませんでした。しかし一方で、お話しさせて頂いた被災者の方々からは、悲嘆に暮れながらも、「何とかしてやろうじゃないか」不屈の魂、日本人の真骨頂を肌で感じました。戦後の焼け野原、まさにゼロから今の国を作り上げてきた日本人の底力は、今もなお世界に誇るべき資質に違いありません。

「絆」という言葉が今回の災害を機によく聞かれるようになりました。私自身、とても大切にしている言葉です。この「絆」という字は、糸篇（いとへん）に半分と書きます。お互いが半歩ずつ歩み寄って初めて一本の糸ができる、私は勝手にそんな解釈をしています。この絆を力に国難を乗り越え、今回の災害が東北、ひいては日本の復興・新生のターニングポイントとなったと後世に位置付けられるようにしていかねばなりません。

災害。高齢化。財政難。世界のいかなる先進国も経験したことがない「未曾有」の状況だからこそ、気後れすることなく、世界のトップランナー、パイオニアとしての気概で、フロンティアを開拓していく。そんなマインドが今求められていると思います。

そのためにすべきことは何か。まずは、ライフラインの復旧、瓦礫の撤去、仮設住宅の設置等の応急処置。国・地方が連携し、一次補正予算を速やかに実行に移すことです。その上で、高台への移住等、災害に強い街づくりに取り組む必要があります。そして何より、東北を世界の最先端にチャレンジする地域にしていきましょう。例えば、

◉宮城・岩手・福島を「日本新生特区」とし、大胆な規制緩和と法人税の減免により、国内外の資本と企業を呼び込み、仙台市を核とした東アジアの新たなハブ（拠点）へと進化させる。

◉水産加工施設と冷凍施設を併設できる地に漁港を集積し、重点投資によって世界に冠たるマリンタウンを構築する。

◉福島原発周辺の土地を国が買い上げて、一面にソーラーパネルを設置し、再生可能エネルギーパークを作る。

財源については、民間資本を呼び込む工夫により、国民負担を最小限にすべきです（原発の損害賠償については、東電・株主等の負担が大前提）。その上で、どうしても必要があれば、一定の国民負担が生じることはやむを得ない。償還財源の無い安易な国債発行は将来世代への無責任な負担転嫁であり許されません。当面は、「歴史に残る」二次補正予算を早急に策定することが政治に課された責務であり、それなくして通常国会を閉じることは怠慢に他なりません。

最後に、震災直後には海外から多くの支援がありました。しかし復興の兆しが見えなければ、この国は容赦無く国際社会から置いていかれることになるでしょう。その分水嶺に立たされている我々は、これからも、国の内外に向けて、日本人の底力を示し続けていかねばなりません。その力を結集し、新しい東北、新しい日本の姿を政治がリードしていけるように、私も全力を尽くしてまいります。

頑張ろう、東北！
甦れ、ニッポン！

小林鷹之
平成二十三年五月吉日
自民党千葉県第二選挙区支部長

メールマガジン vol.1 より抜粋